

平成30年度 佐賀県立唐津工業高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標		2 本年度の重点目標		達成度	
21世紀を担う心身ともに健康でたくましく、知徳体の調和のとれた、視野の広い、工業や社会の発展に貢献できる人材を育成する。 (学校経営ビジョン) 「ものづくりによる人づくり」「部活動による人づくり」を柱として生徒が入学して良かった、保護者が入学させて良かったと思う学校づくり		① いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応 ② ものづくりによる「地域連携・貢献」の充実 ③ 部活動の入部率・定着率の向上と活動の活性化 ④ 規範意識の高揚と基本的生活習慣の定着 ⑤ 全生徒の進路実現のための進路指導の充実 ⑥ 清掃活動の充実と校内美化の向上 ⑦ 資格取得やコンテストへの積極的な挑戦		達成度 A:ほぼ達成できた B:概ね達成できた C:やや不十分である D:不十分である	
3 目標・計画					
① いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法	達成度
教育活動	いじめ問題への対応	いじめ問題の防止と早期発見	いじめ問題の早期発見のためのアンケートを2ヶ月に1回実施する いじめ問題が発生しないよう、昼休みの校内巡視、ホームルームを複数の担任で実施するなど、発生しにくい環境づくりに努める。 ・ヒューマントレーニングや全校集会などで、他人を思いやる心、自他の人権を尊重する態度を育む。	いじめアンケートの結果は、認知に値するものではありません。 ・朝・ホーム前に若手の先生方が校内巡視、昼休みには各学年で校内巡視を実施した。	B
② ものづくりによる「地域連携・貢献」の充実					
教育活動	地域連携・貢献	ものづくりによる「地域連携・貢献」	「ものづくり」をとおして地域に貢献する。 ・地域イベントに参加し、地域に貢献できる製作テーマを見つける。 ・地域から依頼された物を製作する。 ・地元イベントでのものづくり体験教室を開きものづくりの楽しさをPRする。	建築科では、新たに小学校へのムカデ板を市陸上競技場へベンチの寄贈を行っている。鬼塚ふれあいまつり、北波ふれあいフェスタでは、全科とも製作体験教室を行った。このような取組は、地域に浸透し、昨年から引き続きボランティア団体からの依頼でイルミネーション製作を行い工業高校の存在感を示している。	A
③ 部活動の入部率・定着率の向上と活動の活性化					
教育活動	特別活動	部活動の活性化	部活動への加入を奨励する。加入者を前年度より増加させ、活動の活性化を図る。 ・入学式、各集会などで部活動の教育的効果、人格形成に対する効果などを説明し入部を勧誘し、1年生の入部率を向上させる。 ・とくに1年生については3日間の体験入部、および1学期間の全員加入を経て、部活動の魅力を味わわせ、充実した生活に促す。 ・部活動生の活動してきた実績は、その状況に応じて、個人の進路実現に大きく寄与することがあつてほしいと考えているので、進路実現等の場でこれまでにアピールを徹底していきいことを生徒へアナウンスしていく。	・部活動紹介、体験入部、壮行式といった活性化に繋がる学校行事は、その目標達成に向けて実施することができた。しかし、それが1年生の入部率や継続率の向上に繋がらなかった。 ・新しい取り組みとして、2学期に未入部生を対象とした集会を開き、部活動の意義について話をする機会を設けたが、やはり1年生の低入部率の改善には至らなかった。	C
④ 規範意識の高揚と基本的生活習慣の定着					
教育活動	心の教育	道徳教育の推進	規範意識、公共モラル・マナー、自他の生命尊重など、人格形成の一助となることを目指す ・年13回、10分間の「ヒューマントレーニング」を実施する。 ・学期に1回、テーマを生徒に設定させる。 ・予め設定したテーマに対して生徒が感じたままを意見として書き、回収した後、担任・教務等で検証し、しっかりと意見等については中央廊下や教室に掲示する。	本校独自の取組であるヒューマントレーニングは生徒に定着してきた。これまでは、ある現場を見ての感想などが中心であったが、SNSの利用に関するものやオリンピックに関する話題など昨今の社会的な背景を踏まえ、マナーやルールについて考えさせるような質問になってきている。また、代表的な意見などが通って紹介され、他の意見が読めることも良い刺激となっている。三者面談等を通じて保護者への紹介もできた。次年度は学校中に掲載するなどの多くの人の目に触れるような取り組みを行いたい。	B
教育活動	ボランティア活動への積極的参加と、自発的あいさつの推進	ボランティア活動への積極的参加と、自発的あいさつの推進	「地域の美化に貢献する学校」を目指す。各種外部団体主催のボランティアへの参加の合計数100名を目指す。 校内でのあいさつだけでなく、昼下校時の庶民街での自動車に対するお言葉がけをする。	・選に2回、部活動未入部生による学校周辺の放課後清掃活動を実施する。 ・唐津特別支援学校行事への参加、社会福祉協議会等主催のボランティア活動に自主参加することを目指す。 ・生徒による定期的なお言葉、昼下校時の立ち寄り、生徒総会などであいさつについて呼びかける。	B
教育活動	学力向上	授業態度の改善	授業中の態度を成績の一部として評価する。好ましい授業の雰囲気を作り、全員が真摯な態度で受けるよう指導する。	・各授業中の生徒の学習状況で、指導が必要であれば厳しく対峙しその態度、改善を促していく。 ・学習評価において、授業態度を大幅に重視(35%)することを知覚徹底し、生徒の自覚を促しながら改善を図る。	B
教育活動	生徒指導	規範意識の向上	・地域社会におけるマナーの徹底防止 ・自転車乗車マナー向上 ・公共機関利用モラル・マナー向上 ・SNS利用モラル・マナー向上	・呼びかけ呼びかけ ・見逃し対応 ・講話などの活用 ・生徒同士の指導	B
⑤ 全生徒の進路実現のための進路指導の充実					
教育活動	進路指導	進路の実現	基礎学力・コミュニケーション能力を向上させ、進路実現100%を達成する。また、適切な進路情報を提供し、生徒が主体的に進路を選択できるようにする。	・授業で大切に、家庭学習の習慣をつけさせる。生徒の就職・進学への希望の実現を目指す。 ・必要な情報を適切に提供し、適切な進路相談を実施し、生徒の主体的な進路決定のサポートを行う。 ・キャリア教育を行い、求人会社の情報を希望する生徒にタイムリーに提供する。 ・キャリア教育の一つであるインターンシップの受け入れ事業所の開拓も実施する。	B
教育活動	学力向上	基礎学力の定着と夢の実現	学力が低い生徒には、確かな基礎学力を身に付けさせる。また、出口である3年生の就職試験は1回目の試験で希望通りの合格が出るようにする。各自の適性や能力に応じて進路指導を行い、夢を限りなく伸ばす。	「数学会」は、今年度も数学の基礎学力が低い生徒を抽出し、全職員で毎日2名ずつの輪番にて学習期間中指導指導を行い、分かる授業へ取り組む。 ・進路指導部とも連携し、特に1年生については昨年度の指導形態を踏まえ、基礎学力をより一層定着させ、就職試験は一次試験で合格できるような全員で取り組むよう計画する。	B
⑥ 清掃活動の充実と校内美化の向上					
教育活動	環境整備	校内の美化、環境問題に対する意識の啓発	職員・生徒が日頃からきれいな環境で過ごしたいと思う気持ちを含め、校内が美しくなるようにする。ゴミの減量化と資源物の回収を実施する。	・清掃の時間を全生徒・全職員ともに参加し取り組む。生活環境の美化につとめ、進んで専任の意義を認識し、環境に配慮する。 ・ゴミ分別を行うとともに資源物(紙類)回収、環境に配慮する。 ・環境問題についてHR活動を通して生徒の意識の啓発をはかる。	B
教育活動	安全教育	施設的安全点検と実習等の安全作業	安全点検を実施し、必要な対策を行う。実習棟の整理・整備と安全な実習運営	・毎月、各点検担当の責任者が安全点検を実施し、報告する。 ・実習・課題研究では安全作業と適切な環境での作業を徹底する。	A
⑦ 資格取得やコンテストへの積極的な挑戦					
教育活動	資格取得	資格取得の推進と各種コンテストへの参加の奨励	資格試験の合格率を前年度より10%以上向上させる。 「ジューズ」コンテストへの参加を奨励する。	「資格取得ハンドブック」を有効に活用し、学年で最低2つ以上の資格を取得させる。 ・資格取得の意義を理解させ、資格取得を提示するなどして、意識の向上を図る。 ・各科を通して、生徒にコンテストの紹介をする。	B
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目					
教育活動	健康・体力づくり	健康の自己管理能力向上の推進	保健指導を充実させ、受診率の向上を図る。	・健康調査を実施し、生活習慣、健康課題への意識・行動の転換を促す。 ・歯科・視力に関する保健指導を実施し、自己管理への意識付けを行う。	A
本年度の重点目標に含まれない評価項目					
学校運営	学校経営方針	学校経営ビジョン及び重点目標の周知とその達成度	保護者や生徒の重点目標の周知度を80%以上に引き上げる。 学校経営ビジョン及び重点目標については「学校はよく努力している」と評価する保護者や生徒の割合を80%以上に引き上げる。	重点目標の周知について：生徒に対しては、全校集会や各学年学校行事など、機会をとらえ、周知している。保護者については、PTA総会やPTA役員会等で周知を図った。 また、生徒の目につくように中央廊下に掲示している。	B
学校運営	地域に伝達される学校づくりに向けた情報公開	高収入試験率の向上と一般入試で定員1.2倍以上を確保	高収入試験率の向上と一般入試で定員1.2倍以上を確保	・唐津ニュースやメディアなどを通じて、活躍する生徒の活動を地域へ積極的に発信する。 ・体験入学、中学校ごとに行われる高校説明会では学校PR用の動画をい、生徒に分かりやすい説明を行う。	A
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目					
学校運営	業務改善・教職員の仕事改革の推進	業務改善・教職員の働き方改革の推進	各分掌について業務内容を見直し、効率的な業務遂行を工夫する。	各分掌ごとに業務改善案を立案し、取組状況については学期毎に主任より管理職へ報告をする。	C
4 本年度のまとめ・次年度の取組					
<p>○今年度の重点目標のひとつである「ものづくりによる地域連携・貢献」の充実については、地域(石志・山本・北波多)のイベントへの参加、ベンチの寄贈、ボランティア団体の依頼によるイルミネーション製作に加え、今年度は入野小学校の依頼を受け、ムカデ板の製作をしたり、佐志小学校ではものづくり体験教室を行う等、活発に活動した。また、昨年度に引き続き、部活動未入部生による放課後の清掃ボランティア活動を実施した。このような活動により地域住民や小学校に喜ばれただけではなく、取り組みを通して生徒の自己有用感も高まったことは教育的観点からとても意義のある活動であった。</p> <p>○部活動入部率については、1年生の加入率が他の学年に比べ、低い割合であった。次年度に向け、該当学年の加入呼びかけを積極的に進めたい。</p> <p>○授業での指導力向上の取組として、相互参観授業を年間2回行った。また、部活動指導力向上として、外部講師を招いての講習会を行った。このような取り組みにより、「わかりやすい授業」や本校の目標である「部活動による人づくり」の実践に繋がっている。</p> <p>○進路については、就職率、難関企業合格等、成果があったが、進学については佐賀大学に合格させることができなかった。次年度に向け、進学指導体制を見直したい。</p> <p>○情報発信については、ホームページの更新度合いは県内で1番であると自負できる。</p> <p>○次年度の取組としては、引き続き「ものづくりによる人づくり」「部活動による人づくり」に力点を置き、中学生や保護者に魅力を感じてもらえるような学校運営に取り組む。</p>					

●は共通評価項目、○は独自評価項目